



世界遺産は、生まれ変わっても、世界遺産でなければ。

まるで、巨大な箱にしまい込まれたプレゼントのように。姫路城はいま、巨大な「素屋根（すやね）」のなかで半世紀に一度の大修理を受けながら、じっと息を潜めています。日本で初めて世界遺産に登録された国宝・姫路城を、次の世代へ引き継ぐ「平成の保存修理」。それは、半世紀前の「昭和の大修理」をも経験した鹿島だからこその大役です。なぜなら、姫路城の尊さと比例するように、たいへんな困難をともなう工事だからです。特別史跡であるために釘1本打てない地面に基礎をつくり、作業用ステージを築き、国宝のすき間を縫うように鉄骨を組み上げ、足場をめぐらせ、13階建てビルに相当する高さ46メートルの大天守を、すっぽりと素屋根で覆う。そのとき、万が一にも屋根や壁を傷つけることは許されない。日本一難しいと称される、素屋根の建設。そして、この素屋根が雨や風から大天守を守るあいだ、たくさんの職人たちが力を合わせ、屋根瓦をすべてふき

替え、漆喰を塗り替え、床や建具を補修し、耐震補強も実施。天高く反り上がる2匹の鯉（しゃち）も生まれ変わり、工事開始から、約4年。いま姫路城は素屋根のなかで、新たな鼓動を始めています。現在、素屋根内部には、姫路市の見学スペース「天空の白鷺」がオープン中。エレベータで最上部に昇れば、大天守のまばゆい大屋根が目前に。歴代の城主たちですら立ったことがない特別な場所から、いまだけの姫路城をご覧いただけます。入館は、来年1月15日まで。その後はいよいよ、素屋根の解体が始まります。もちろん、世界遺産を傷つけないように、そっと。季節がもうひと巡りして、2015年に春が訪れるころ。巨大な箱のすべてが開き、未来へプレゼントを贈る日がやって来ます。

